

文化財と御嶽山

田辺栄吉

東京都下二十七市の中で国宝のある市は三市しかなく、二つもあるのは青梅市だけである。しかも重要文化財、重要美術品が十三もあり、平安末期から各時代に亘って存在しているのは、全都的にみても非常に珍しいことである。

青梅市の国宝、重要文化財、重要美術品のうち、武州御嶽山には、国宝二点、重要文化財三件、重要美術品三件そして国の天然記念物が一点と数多くあることは、御嶽山信仰が関東平野全域にまたがり御嶽神社の御師さん、講中の人々の強い信仰に支えられ偉大な文化と伝統が多くの人々によって伝えられてきたことを如実に物語っていると見えよう。

そして、関東平野の各地から、青梅街道を講中の人それぞれが参拝人が往来し、江戸をはじめ各地から招来された文化を、御嶽山で多年に培われた厚い信仰心と伝統とともに、営々と今に引き継いで来たことを私達青梅の人々は忘れてはならない。

また、近年注目されてきた太々神楽が毎年野外で薪神楽として演ぜられるが、是非皆様方に御覧いただきたいと思



このたび、片柳統一社中、新座市員沼講石井勇講元以下十九名の講員のご奉納により、社務所前十四段の階段が完成した。

材質は御影石で、両側の欄干には講中全員の名前を彫り込んだ素晴らしい階段で、昨年十月三日黒田宮司の齋主により竣工式が執り行われ、その後神前に奉告祭と太々神楽が盛大に奏上された。

階段奉納



この様な素晴らしい行事や文化財を、一人でも多くの人々に知ってもらい、郷土を愛する境地を切り開いて戴きたいものです。



います。何といっても嬉しいのは、全山がお客様を温かく迎えてくださることである。

そして、独特な演奏の中で舞われ、炎の中に写し出される神々しい神楽、そこに醸し出される雰囲気は荘厳そのものであり、遙か神代の時代に引き戻され神々しい心地に誘われる。

この様な素晴らしい行事や文化財を、一人でも多くの人々に知ってもらい、郷土を愛する境地を切り開いて戴きたいものです。



境域整備事業二期目竣工

境域整備事業二期目の今年度は、皇御孫命社及び神門の漆塗替と同所に奉納された文化五年銘の狛犬、天保七年・安政三年銘の燈籠の修復さらに東照社の修理並びに漆塗替が行われ、竣工後平成十年十一月二十三日夕刻厳かに遷座祭が執り行われた。一期目に比べ地味な事業であったが、大杉に潰

され分解した狛犬、燈籠が最新の技術で、見事に復元され、また皇御孫命社神門と東照社は本漆が施され重厚な建物に蘇った。平成十一年度三期目は、昭和四十一年の台風で破壊された大口眞神社の神門と玉垣の再建が予定され、これにより三か年にわたり総事業費約八千万円の境域整備事業が終了する。

国指定の天然記念物

「御岳の神代樺」蘇える

大樺として親しまれている神代樺（推定樹齢八百年）は、枯枝が目立ち心配されていたが、昨秋、国・都・青梅市の事業として修補工事が行われた。腐朽部の切除、枯枝の剪定、支柱の設置、施肥等がなされ、再び若葉の生い茂った雄姿が見られそうである。

